

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2190500187		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム各務原前洞新町(愛ユニット)		
所在地	岐阜県各務原市那加前洞新町3丁目3番地		
自己評価作成日	平成29年12月 4日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190500187-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190500187-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年12月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

会社理念の中にもある、普通の生活を考え、ご利用者様の立場に立ち、希望に沿った生活が送れるように支援しています。また、自立範囲の維持、向上が出来るように、日常生活の支援を行うようにしています。その為にも、活動量を維持していけるように、JOYSOUNDを活用した、体操やレクリエーションを毎日行い、機能訓練にも取り組んでいます。外出支援も定期的に行えるようにし、季節ごとに行事を計画したり、誕生日の時には、ご利用者様の行きたいところへ行く支援を実施し、気分転換を図っています。また、食事にも力をいれており、味はもちろん見た目にもこだわり、季節感を感じて頂けるような工夫をしています。食事に関しては、社内コンテストにて1位を獲得することが出来ました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

家庭的な生活が営まれる事を第一に考えて支援している。人手不足の中でも、職員は理解して支え合いチームワーク良く支援にあたっている。楽しみを持った生活を維持するため、毎日のレクリエーション活動に重点を置き、ホームに関わる全員が笑顔でいられる環境を目標にしている。ホームイベントもまた多彩で、職員全員が様々な企画提案をしている。  
 外出支援にも積極的に取り組み、同法人の「おがせホーム」と共に花火大会の見学に行き、利用者の溢れる笑顔を職員の励みにしている。歌が好きで、NHKの「のど自慢」に応募した利用者もいる。予選で敗退したが、他の利用者や職員が応援に行った。身体機能の維持のための機能訓練も毎日実施しており、食事の法人内コンテストでは、全国1位になるほどのレベルの高さである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は毎日朝礼、夕礼で唱和し、企業倫理についても、ミーティングなどを通して現場で活かせるように指導しています。ホーム長はホームの年間目標を設定し、達成出来るように、支援の方針をスタッフに周知しています。	ホームの年間目標を毎年9月に設定している。今期の目標を「職員のスキルアップの為に自ら考えて行動する」とし、会議や独自のチェックシートを活用しながら確認し、支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や近所の祭り、中学校との交流、認知症カフェにご利用者様も参加しています。また、近所のかたが描いた絵をホーム内で展示するなど交流機会を作るようにしています。	地域の祭りや行事に参加して交流し、高齢者を支える会に加入して地域との関係を密にしている。ボランティアが開くカフェにも参加している。バイオリン・マジック等のボランティアが来て利用者の笑顔を増加させている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自ホームのご利用者様、ご家族様以外にも、市内の病院や他施設と協力、連携を図り、地域の方との交流会や認知症サポーター養成講座も行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回、行事や取組みの報告、事故、ヒヤリ・ハットの改善策まで報告を行い、安心感、信頼感のあるホームになるように、参加者の方々からも意見を頂き参考にさせて頂いている。	市の指導により、年4回の報告や意見交換等、有意義な会議を行っている。家族の参加が少ないことから、今回は家族会を兼ねた運営推進会議を予定をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者様には推進会議に参加して頂いています。また、福祉フェスティバルでの売上金を市に寄付したり、介護認定審査会の委員も行わせて頂いています。	認知症カフェに参加したり、懇親会や外部研修等に積極的に参加して情報交換に努めている。管理者は認知症認定審査会の委員も務め、地域包括支援センター主催の「高齢者を支える懇親会」で精力的に活動している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で、拘束に関する規則等説明を行っている。ホーム内で不適切なケアがないかの見直しも定期的に行っています。玄関の施錠は行っているが、ご利用者様の要望があれば外に出られるように環境配慮を行っている。	法人の「不適切ケアチェックシート」を活用し、日々スピーチロックをはじめ身体拘束を行わないよう徹底している。玄関の施錠を行っているが、利用者が希望をすれば出られるようにして、ユニットごとの行き来を自由にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度ホーム内研修で職員に指導、注意喚起を行っている。スタッフの介護疲れなども配慮し働きやすい環境作りを行うためにも、面談等の実施を行いコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間のホーム内研修で実施、成年後見制度についての理解は難しいところもあり、全職員が権利擁護についての知識が十分にあるとはまだ言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて、契約事項の説明を管理者が行っている。身元引受人様、今後関わりの深いご家族様には特に慎重にお話をさせていただき理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様アンケートを行い、意見や要望をお聞きしている。結果については、ミーティング等で職員に周知対策を考えている。面会やお便りを通してご家族様には報告し、要望の確認も行っている。	運営推進会議に参加する家族は少ないが、訪問時に職員は積極的に話しかけ、要望や意見を汲み取っている。遠方に住んでいる家族には、手紙や電話で頻繁に連絡を取り合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のホームミーティングやユニットごとの会議、必要に応じて個人面談、社内アンケートを行い、職員からの意見を聞き、職場環境、介護技術の向上を図るようにしている。	ユニットリーダーを配置し、職員の意見がスムーズに管理者に伝わる様にしている。勤務予定表を職員共同で作成する事を始め、不平不満がなくなった。管理者に権限が集中することなく、職員主導の職場環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場に入り、就業環境の把握を行うようにしている。個人面談も実施し、各自が向上心を持って仕事ができるようにコミュニケーションを図る時間を作り、毎月のミーティングの中でも職員の声を聴く時間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修や実践者研修の参加の呼びかけを通して介護技術向上を図り、必要に応じて1対1でのスタッフ指導にあたることもある。スキルアップを図る為の研修の実施も増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者との関わりには積極的に参加し、勉強会や交流会を通して関係性を深めています。居宅、施設、通所との連携を図り、自ホームの質向上にも繋げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの際には何度かお会いするようにし、不安要素や要望を伺い、サービスに繋げている。ご家族様との連携も図り、安心できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントにて要望、不安に思っていることを伺い、出来る限り応えられるようにしている。お便りや電話などで近況の報告をこまめに行い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談、アセスメントの時に必要なサービスについての相談を本人、ご家族様、関連機関から受け、ご本人様、ご家族様が望む支援が受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を意識し、ご利用者様に合わせた支援を行っている。また、役割を持って頂き、日常生活動作についても必要以上の介助を行わないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や誕生日会、運営推進会議への参加にお誘いし、ご利用者様と関わる時間を持って頂けるようにしている。行事の際にはご家族様だけを集めて相談会も実施し関係性の構築を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の床屋や思い出の場所などご本人様が大切にしている人や場所、物など関わることが出来るように、ご家族様にも協力をして頂きながら実現できるように支援しています。	家族の来所も多く、それ以上に友人が多く訪れており、利用者と談話している。自宅に帰って仏壇の掃除をしたり、馴染みの床屋に行ったりする利用者もいる。ホームは、外来者に訪問しやすい環境づくりを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	JOYSOUNDを活用したレクリエーションや体操、行事、誕生日会などはご利用者様全員に参加して頂けるようにし、孤立のない、関係性の構築に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後にも、相談に応じ、転移先への訪問も必要に応じて行い、これまでの関係性の継続が行えるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情の変化を大切にし、ご本人様の話を傾聴し信頼関係を作るようにしています。ご家族様と話すときも本人本位で考えられるように努めています。	声掛けに気を配り、無下にせず傾聴することを大切にしている。職員都合の支援になっている場合には、管理者が利用者のための支援が行われるよう注意している。	利用者の意向を把握するための話し合いを重ね、職員全体が知識や現状を共有し、利用者主体の支援が今まで以上に実践されることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時、センター方式や社内のアセスメント様式を活用しながら出来るだけ深くアセスメントできるように努めている。また、入居後もアセスメントの見直しを3か月に一度行い、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報や申し送りノートなどの活用、また朝、夕の申し送りで心身の状態を報告し、対応している。ユニット毎の会議も実施し、問題があれば解決するための取り組みを検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でモニタリング、ご家族様の意見などを基に、現状に必要なサービスの提供が行えるように計画作成を行っている。	3ヶ月に1度、介護計画の見直しを行い、家族の意見も聞き取り、身体介護の計画は完璧である。一方で、利用者本人の意向の汲み取りが乏しい介護計画も存在している。	日頃の支援の中で利用者の気持ちを読み取り、意向が漏れなく盛り込まれた介護計画を作成し、利用者主体の支援に繋がることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や看護記録を基に、申し送りノートに記載し、引き継ぎの情報共有を円滑に行っている。アセスメントやモニタリングなど計画書の作成にも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の要望に応えられるように、状況に合わせてサービスの見直しを行い、職員の出来るサービスが何かを日々追及している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源も活用し、買い物や喫茶店、認知症カフェへ出かけ、認知機能の進行防止や身体機能低下の防止へと繋げている。ご家族様との旅行や外出も定期的に行っている方もみえる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の説明、相談を行いながら主治医の決定を行い、その他必要な医療機関との連携が図れるようにし、納得のいく受診支援が出来るようにしている。	協力医の往診が月2回あり、毎週来る訪問看護や薬剤師との連携が取れている。受診時には、利用者の異変があった部分の写真や状況をまとめた資料を作成して伝え忘れを防止し、万全な医療体制をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が出勤し、ご利用者様の看護を行っている。24時間対応で行っており、状態変化があれば、連携をとり早期に適切な対応が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は3日に1度は面会に行き、医師や看護師から経過報告を受けるようにしている。退院調整も相談員と連携を図っている。入院者がいない時も、月に一度は訪問し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、医師との連携を図り、看取りの際には話し合いを密に行い、本人やご家族様の意向に出来るだけ沿った支援をおこなえるようにしている。契約時には重度化や看取りについての説明も行っている。今年度も1名看取りを実施。	利用開始時に利用者・家族に対し、重度化した場合や終末期の支援方針を説明している。協力医との連携もあり、職員は経験を活かして意向に添った支援(ホームでの看取り)を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングの中で定期的に研修は行い、看護師からも随時指導を受けている。救急時や事故時のマニュアルもあり、定期的に確認し職員には周知してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いの下、年2回、夜間想定も含めた避難訓練を行っている。消防署に依頼し、今年度は災害時の対応についての指導も受けた。	消防署立ち会いの下で避難訓練を行い、避難経路を散歩して非常時に備えている。法人が既定する以上の備蓄を行い、管理者は非常時には「地域の人にも利用してもらえたら」と考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間計画の中にプライバシーについての研修が組み込まれており、尊厳や倫理についての勉強を実施している。不適切ケアの見直しとしてプライバシーや尊厳についても確認している。	人生の先輩として尊重し、言葉遣いにも気を配っている。名前も家族や利用者が望む呼び方をしている。また法人の「不適切ケアチェックシート」を活用し、利用者個々の尊厳を傷つけない支援を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や食事など要望をお聞きする機会を設けている。服装なども可能な方には本人様に決めて頂くことも行っている。確認する大切さを職員に周知し職員都合の介助にならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出やレクリエーション、行事などご本人様の意思を尊重して参加の有無を決定して頂き、ご本人様のペースで無理なく過ごして頂くように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時や入浴後、外出時などご本人様の意思に合わせた身だしなみが出来るように支援している。毎月訪問美容院の利用もあり、希望によっては指定の美容院へ出かける支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目にもこだわった食事の提供を行っている。季節を感じて頂けるようなメニューや盛り付けにも配慮して提供している。準備や片付けは、ご利用者様にも参加して頂くこともある。	盛り付けや彩り、食材の切り方にも気を配り、利用者が安心して食べられるようにしている。利用者は行事食を楽しみにしており、“食”への意欲を損なわない様に支援している。食事の法人コンペで、全国1位に輝いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の嚥下状態に合わせて、食事の大きさや柔らかさを調整し、飲み物も、種類を多く揃え好みの物を水分量が維持できるように摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて介助もしながら清潔保持を行っている。2週間に1度歯科往診もあり口腔状態の管理を行ったり、希望によっては希望の歯科に受診できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の状態に合わせて、下着やオムツ、パットの調整を行い、時間ごとのトイレ誘導など出来るだけトイレでの排泄が行えるように、支援している。	ポータブルトイレを使用せず、ほとんどの利用者が自立できるように排泄チェックシートを活用して誘導している。タイミングを図り、声掛けや誘導の仕方も細やかに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳酸菌を使用し、便秘傾向の方の改善を行っている。また、日頃の運動や、医師との連携を図りながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望に合わせて入浴は行い、拒否のある方は無理な入浴は行わず、体調や気分に合わせて、室温管理にも注意しながら清潔保持を行っている。	利用者の体調を考慮し、希望に合わせて入浴支援を行っている。職員のみならず、利用者もいつ入浴をしたか記録表を浴室に貼り、入浴拒否者の説得ツールとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や加湿器の使用、冬場には湯たんぽを使用し安眠できる環境を作っている。日中の活動も適度に行い、昼夜逆転などにも注意している。フローアや畳スペースで臥床することを希望される方もみえる為、応じています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週薬剤師の方に薬を持ってきて頂き、管理している。お薬ノートを活用し、助言や指導された内容は、ミーティングや申し送りノートに記載して周知している。お便りでも薬の変更点はお伝えしご家族様にも把握して頂けるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様に合わせて、家事手伝い等の役割をつくるようにしている。余暇の時間にも趣味や特技に合った作業が出来るように買い物や外出の支援をし促すようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事では季節を感じて頂けるような場所への外出を行ったり、天気の良いときには散歩に出かけるようにし体力維持にも努めている。外出行事時はご家族様にも参加を促し、一緒に楽しむ時間を作るようにしている。	現状、人手不足により完全な個々の要望に応えられていないが、家族の助けを借りて出来る限り外出できるように努力している。近くの川沿いの桜やアジサイを見ながら散歩をしたり、ADLの同等なグループごとに分かれて遠足に出かけたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には自分で選択し、購入する際には自分で支払いをして頂き、自分のお金を自分で使えるようにしている。お金の管理は金庫にて預かっていることを説明し安心して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の要望に合わせて、ご家族様などに電話をし、自らが会話することもある。手紙なども書ける方には書いて頂き、困難な時に代筆しやり取りが出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように、部屋の飾り付けを行ったり、音楽を流すようにしている。居室もご利用者様の要望に合わせ配置を行っている。室温、湿度の管理も行い、居心地良く過ごして頂けるように配慮している。	ホーム全体が丁寧に清掃されており、気持ち良く過ごせるようにしている。玄関には保育園児からプレゼントされた絵が飾られ、福祉体験学習で訪れた中学生の感想文も掲示してある。クリスマスの飾りつけがあり、明るい雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを用意、和室もあつくろげる空間を提供している。座席の変更もご本人様の意思を確認し気の合うご利用者様同士過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時などにご家族様やご本人様からなじみのある家具や物などをお聞きし、居心地の良い空間になるように配慮している。	清掃が行き届いており、清潔感のある居室になっている。馴染みの家具を持ち込み、個々が居心地の良い環境にしている。息子が初任給で利用者にプレゼントをした思い出深い筆筒を、今も大切に使っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を用いて、出来ること、出来ないことを把握し、その人に合わせた安全な生活が送れるように考えている。トイレなどわかりやすいように表示し、自立を促せるように配慮がしてある。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2190500187		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム各務原前洞新町(輝ユニット)		
所在地	岐阜県各務原市那加前洞新町3丁目3番地		
自己評価作成日	平成29年12月 4日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190500187-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190500187-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年12月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

会社理念の中にもある、普通の生活を考え、ご利用者様の立場に立ち、希望に沿った生活が送れるように支援しています。また、自立範囲の維持、向上が出来るように、日常生活の支援を行うようにしています。その為にも、活動量を維持していけるように、JOYSOUNDを活用した、体操やレクリエーションを毎日行い、機能訓練にも取り組んでいます。外出支援も定期的に行えるようにし、季節ごとに行事を計画したり、誕生日の時には、ご利用者様の行きたいところへ行く支援を実施し、気分転換を図っています。また、食事にも力をいれており、味はもちろん見た目にもこだわり、季節感を感じて頂けるような工夫をしています。食事に関しては、社内コンテストにて1位を獲得することが出来ました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は毎日朝礼、夕礼で唱和し、企業倫理についても、ミーティングなどを通して現場で活かせるように指導しています。ホーム長はホームの年間目標を設定し、達成出来るように、支援の方針をスタッフに周知しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や近所の祭り、中学校との交流、認知症カフェにご利用者様も参加しています。また、近所のかたが描いた絵をホーム内で展示するなど交流機会を作るようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自ホームのご利用者様、ご家族様以外にも、市内の病院や他施設と協力、連携を図り、地域の方との交流会や認知症サポーター養成講座も行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回、行事や取組みの報告、事故、ヒヤリ・ハットの改善策まで報告を行い、安心感、信頼感のあるホームになるように、参加者の方々からも意見を頂き参考にさせて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者様には推進会議に参加して頂いています。また、福祉フェスティバルでの売上金を市に寄付したり、介護認定審査会の委員も行わせて頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で、拘束に関する規則等説明を行っている。ホーム内で不適切なケアがないかの見直しも定期的に行っています。玄関の施錠は行っているが、ご利用者様の要望があれば外に出られるように環境配慮を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度ホーム内研修で職員に指導、注意喚起を行っている。スタッフの介護疲れなども配慮し働きやすい環境作りを行うためにも、面談等の実施を行いコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間のホーム内研修で実施、成年後見制度についての理解は難しいところもあり、全職員が権利擁護についての知識が十分にあるとはまだ言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて、契約事項の説明を管理者が行っている。身元引受人様、今後関わりの深いご家族様には特に慎重にお話をさせていただき理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様アンケートを行い、意見や要望をお聞きしている。結果については、ミーティング等で職員に周知対策を考えている。面会やお便りを通してご家族様には報告し、要望の確認も行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のホームミーティングやユニットごとの会議、必要に応じて個人面談、社内アンケートを行い、職員からの意見を聞き、職場環境、介護技術の向上を図るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場に入り、就業環境の把握を行うようにしている。個人面談も実施し、各自が向上心を持って仕事ができるようにコミュニケーションを図る時間を作り、毎月のミーティングの中でも職員の声を聴く時間を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修や実践者研修の参加の呼びかけを通して介護技術向上を図り、必要に応じて1対1でのスタッフ指導にあたることもある。スキルアップを図る為の研修の実施も増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者との関わりには積極的に参加し、勉強会や交流会を通して関係性を深めています。居宅、施設、通所との連携を図り、自ホームの質向上にも繋げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの際には何度かお会いするようにし、不安要素や要望を伺い、サービスに繋げている。ご家族様との連携も図り、安心できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントにて要望、不安に思っていることを伺い、出来る限り応えられるようにしている。お便りや電話などで近況の報告をこまめに行い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談、アセスメントの時に必要なサービスについての相談を本人、ご家族様、関連機関から受け、ご本人様、ご家族様が望む支援が受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を意識し、ご利用者様に合わせた支援を行っている。また、役割を持って頂き、日常生活動作についても必要以上の介助を行わないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や誕生日会、運営推進会議への参加にお誘いし、ご利用者様と関わる時間を持って頂けるようにしている。行事の際にはご家族様だけを集めて相談会も実施し関係性の構築を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋や思い出の場所などご本人様が大切にしている人や場所、物などに関わることが出来るように、ご家族様にも協力をして頂きながら実現できるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	JOYSOUNDを活用したレクリエーションや体操、行事、誕生日会などはご利用者様全員に参加して頂けるようにし、孤立のない、関係性の構築に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後にも、相談に応じ、転移先への訪問も必要に応じて行い、これまでの関係性の継続が行えるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情の変化を大切に、ご本人様の話を傾聴し信頼関係を作るようにしています。ご家族様と話すときも本人本位で考えられるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時、センター方式や社内のアセスメント様式を活用しながら出来るだけ深くアセスメントできるように努めている。また、入居後もアセスメントの見直しを3か月に一度行い、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報や申し送りノートなどの活用、また朝、夕の申し送りで心身の状態を報告し、対応している。ユニット毎の会議も実施し、問題があれば解決するための取り組みを検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でモニタリング、ご家族様の意見などを基に、現状に必要なサービスの提供が行えるように計画作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や看護記録を基に、申し送りノートに記載し、引き継ぎの情報共有を円滑に行っている。アセスメントやモニタリングなど計画書の作成にも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の要望に応えられるように、状況に合わせてサービスの見直しを行い、職員の出来るサービスが何かを日々追及している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源も活用し、買い物や喫茶店、認知症カフェへ出かけ、認知機能の進行防止や身体機能低下の防止へと繋げている。ご家族様との旅行や外出も定期的に行えている方もみえる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の説明、相談を行いながら主治医の決定を行い、その他必要な医療機関との連携が図れるようにし、納得のいく受診支援が出来るようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が出勤し、ご利用者様の看護を行っている。24時間対応で行っており、状態変化があれば、連携をとり早期に適切な対応が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は3日に1度は面会に行き、医師や看護師から経過報告を受けるようにしている。退院調整も相談員と連携を図っている。入院者がいない時も、月に一度は訪問し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、医師との連携を図り、看取りの際には話し合いを密に行い、本人やご家族様の意向に出来るだけ沿った支援をおこなえるようにしている。契約時には重度化や看取りについての説明も行っている。今後看取りに入っていく方もみえご家族様にも説明済。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングの中で定期的に研修は行い、看護師からも随時指導を受けている。救急時や事故時のマニュアルもあり、定期的に確認し職員には周知してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いの下、年2回、夜間想定も含めた避難訓練を行っている。消防署に依頼し、今年度は災害時の対応についての指導も受けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間計画の中にプライバシーについての研修が組む込まれており、尊厳や倫理についての勉強を実施している。不適切ケアの見直しとしてプライバシーや尊厳についても確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や食事など要望をお聞きする機会を設けている。服装なども可能な方には本人様に決めて頂くことも行っている。確認する大切さを職員に周知し職員都合の介助にならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出やレクリエーション、行事などご本人様の意思を尊重して参加の有無を決定して頂き、ご本人様のペースで無理なく過ごして頂くように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時や入浴後、外出時などご本人様の意思に合わせた身だしなみが出来るように支援している。毎月訪問美容院の利用もあり、希望によっては指定の美容院へ出かける支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目にもこだわった食事の提供を行っている。季節を感じて頂けるようなメニューや盛り付けにも配慮して提供している。準備や片付けは、ご利用者様にも参加して頂くこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の嚥下状態に合わせて、食事の大きさや柔らかさを調整し、飲み物も、種類を多く揃え好みの物を水分量が維持できるように摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて介助しながら清潔保持を行っている。2週間に1度歯科往診もあり口腔状態の管理を行ったり、希望によっては希望の歯科に受診できるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の状態に合わせて、下着やオムツ、パットの調整を行い、時間ごとのトイレ誘導など出来るだけトイレでの排泄が行えるように、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳酸菌を使用し、便秘傾向の方の改善を行っている。また、日頃の運動や、医師との連携を図りながら予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の希望に合わせて入浴は行い、拒否のある方は無理な入浴は行わず、体調や気分に合わせて、室温管理にも注意しながら清潔保持を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や加湿器の使用、冬場には湯たんぽを使用し安眠できる環境を作っている。日中の活動も適度に行い、昼夜逆転などにも注意している。フローアールや畳スペースで臥床することを希望される方もみえる為、応じています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週薬剤師の方に薬を持ってきて頂き、管理している。お薬ノートを活用し、助言や指導された内容は、ミーティングや申し送りノートに記載して周知している。お便りでも薬の変更点はお伝えしご家族様にも把握して頂けるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様に合わせて、家事手伝い等の役割をつくるようにしている。余暇の時間にも趣味や特技に合った作業が出来るように買い物や外出の支援をし促すようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事では季節を感じて頂けるような場所への外出を行ったり、天気の良いときには散歩に出かけるようにし体力維持にも努めている。外出行事時はご家族様にも参加を促し、一緒に楽しむ時間を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には自分で選択し、購入する際には自分で支払いをして頂き、自分のお金を自分で使えるようにしている。お金の管理は金庫にて預かっていることを説明し安心して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の要望に合わせて、ご家族様などに電話をし、自らが会話することもある。手紙なども書ける方には書いて頂き、困難な時に代筆しやり取りが出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように、部屋の飾り付けを行ったり、音楽を流すようにしている。居室もご利用者の要望に合わせて配置を行っている。室温、湿度の管理も行い、居心地良く過ごして頂けるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを用意、和室もありくつろげる空間を提供している。座席の変更もご本人様の意思を確認し気の合うご利用者様同士過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時などにご家族様やご本人様からなじみのある家具や物などをお聞きし、居心地の良い空間になるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を用いて、出来ること、出来ないことを把握し、その人に合わせた安全な生活が送れるように考えている。トイレなどわかりやすいように表示し、自立を促せるように配慮がしてある。		